

放課後かまくらっ子で大切にすること (第3版)

～ 出あう つながる ふるさとで自ら育つ ～



令和8年6月

放課後かまくらっ子 事業改新ワーキンググループ

放課後かまくらっ子推進部会

目次

I	基本理念	1
---	------	---

II	支援員の役割	2
----	--------	---

III 放課後かまくらっ子に関わるスタッフの行動規範(スタンダード)

1	子どもとの会話	4
---	---------	---

2	子どもとの関わり方	6
---	-----------	---

3	保護者との関係	7
---	---------	---

4	学校との連携	8
---	--------	---

5	スタッフ間の連携	9
---	----------	---

6	施設の広報・掲示物	10
---	-----------	----

7	その他	11
---	-----	----

IV 別冊資料集

1	放課後かまくらっ子スタッフのためのポイント集	12
---	------------------------	----

2	NG行動・NG言動集	15
---	------------	----

3	放課後かまくらっ子スタッフ チェックリスト	16
---	-----------------------	----

4	参考事例集	18
---	-------	----

I 基本理念ss

出あう・つながる・ふるさとで自ら育つ

- 1 地域の様々な人・モノ・コトと出あう
- 2 出あいを通じて人や生き方、
体験や社会とつながる
- 3 つながりの中で地域に親しみを感じ、
子どもたちが自ら育つ力をはぐくむ
- 4 地域住民や中高生、大学生など、放課後かまくらっ
子に関わる全ての人にとっての共育の場となる
- 5 地域住民が参画した放課後かまくらっ子の活動を通
じて地域づくりを進めていく



II 支援員の役割

I 遊びや体験の支援

子どもは遊びや体験を通じて自主性・社会性・創造性が培われ成長します

子どもにとって、放課後が好きなことに没頭できる輝かしい時間となる支援を行います。

→子どもにとって、充実した居場所となるよう環境の整備と、遊びや体験の支援を行います。

2 生活の支援

幼児期・児童期の子どもは基本的な生活習慣の習得が大切です

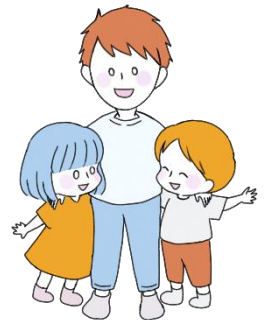
子どもの生活を時間・空間の両面から捉え、子どもの発達段階や実状に合わせながら放課後かまくらっ子での生活などを組み立てます。

3 発達・育成の支援

子どもの生活環境・個性等は様々です

放課後かまくらっ子では、子どもの多様性を踏まえながら、遊びや体験を通じた一人ひとりの個に応じた発達を支援します。

また、必要に応じて関係機関へ支援をつなぎます。



4 安全・保健

子どもが自らの安全に配慮して行動するとともに、他者の安全にも目を

向けて生活・行動できることが大切です

放課後かまくらっ子での施設環境を整えて、危険から子どもを守るとともに、子ども自らが安全や健康を管理し、他者にも配慮しながら落ち着いて行動できるようにするための支援や活動を行います。

5 地域や学校、保護者との連携

子どもは地域社会の中で生きています

そのため、地域とつながりを持ち、地域と交流を深めることが大切です

放課後かまくらっ子では、様々な地域住民や地域団体との関わりを子どもがもてるよう環境整備を重視するとともに、学校との連携も深め、一人ひとりの子どもの状況に合わせた地域社会における成長に目を向けて、支援します。

また、保護者とのコミュニケーションを通じて、子どもが育つ家庭での生活を支えます。

Ⅲ 放課後かまくらっ子に関わる

スタッフの行動規範(スタンダード)

Ⅰ 子どもとの会話

①子どもが話しかけやすい・ホッとする関係を構築する

【取組むこと】

- ☞ 子どもが「〇〇さん」やニックネームなどでスタッフを呼べる環境を作る
- ☞ 「〇〇君・さん」など名前で呼ぶ
- ☞ 子どもを見守る姿勢に注意する
- ☞ 腕組みなど威圧的と捉えかねない姿勢をとらない
- ☞ 大人の意見を伝えるより、まずは子どもの話を傾聴することを優先する

②スタッフのいずれかが

一人ひとりの子どもと必ず会話するようにする

【取組むこと】

- ☞ 意識して多くの子どもに声をかけるようにする
- ☞ 他のスタッフと子どもとのやりとりにも気を配る
- ☞ 子どもの小さな変化などに気づけるように心がける

③子どもに共感し、子どもの話に興味をもつ

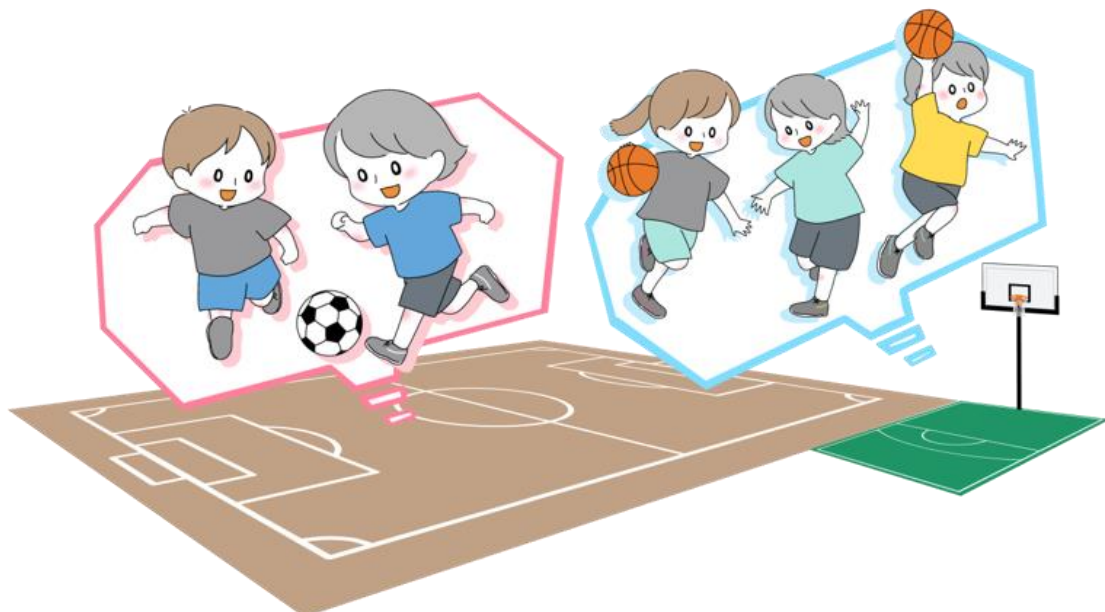
【取組むこと】

- ☞ スタッフ間で子どもの関心事や困りごとなどを日常的にシェアできるようにする
- ☞ 子どもの趣味や頑張っていることを知るように努める

④子どもと関わる支援員として相応しい丁寧な言葉遣いをする

【取組むこと】

- ☞ 威圧的と捉えられかねない言葉を使わない
- ☞ 身体的特徴などを揶揄するなど人権を侵害するような発言はしない



2 子どもとの関わり方

①子どもの自主性を引き出す

【取組むこと】

- ☞ 子どもへの指示は最小限にする
- ☞ 子どもを信じて長期的な視点での成長を大切にし、必要以上に手伝わない
- ☞ 子ども同士で課題に向き合うような環境を整備する
- ☞ 子ども同士で考え、解決できる機会を大切にする

②子どもがワクワクする時間を提供する

【取組むこと】

- ☞ 子どものやりたい気持ちを大切にする
- ☞ 子どもの最善の利益を考える
- ☞ 子どもの意見を具現化する仕組みをつくる

③子どもに寄り添った柔軟な対応をする

【取組むこと】

- ☞ 時と場に応じて、見守りだけでなく一緒に遊んだり、関わったりする
- ☞ 発達段階や個性等の多様性に配慮して関わる



3 保護者との関係

① 常日頃から保護者とコミュニケーションをとることを意識する

【取組むこと】

- 👉 挨拶を丁寧に行う
- 👉 お迎え時にはできるだけ施設内で待ってもらい、子どもの活動の様子に触れられるようにする

② 子どもに注意したこと、子ども間のトラブル、ケガなどあった場合は、状況を詳細に把握したうえで事実報告を行う

【取組むこと】

- 👉 事実関係を把握するために本人への確認とともに周りの子どもへの聞き取りを必ず行い、時系列のメモを作成する



4 学校との連携

※②と③の取組については主に統括支援員が行う。

①学校教職員との良好な関係を維持する

【取組むこと】

- ☞ 日頃から学校の教員とのコミュニケーションを大切にする
- ☞ 教員だけでなく、調理員さんや技能員さん、事務員さんにも丁寧な挨拶をすることを心がける
- ☞ 学校への依頼や訪問時は、事前に連絡し、伺う時間を確認する

②学校教職員との情報交換を適宜、行う

【取組むこと】

- ☞ 大きなけがや学校生活に影響しそうなトラブルは、速やかに学校管理職へ報告する
- ☞ 子どもの様子を担任に伝える際は、管理職にも共有し、対応する
- ☞ 配慮が必要な児童や保護者間のトラブルは、学校と青少年課(巡回相談員)とで情報共有を行う
- ☞ 学校からの情報は、統括を含む複数名で受け、整理・共有する

③学校施設や物品の利用のルールを徹底する

【取組むこと】

- ☞ 利用方法が分からない場合は、子どもに聞かず、教職員へ確認する
- ☞ 共有部分は利用後に清掃し、破損や汚れは写真で記録し報告する
- ☞ 備品を破損した場合は使用を中止し、学校へ報告して指示を仰ぐ

④学校のルールを理解する

【取組むこと】

- ☞ 学校生活の決まりを共有してもらい、施設での生活もできるだけそれに準じる
- ☞ 独自のルールを設ける場合は、学校との違いを子どもに説明する

5 スタッフ間の連携

①子どもの様子・変化や、情報についてスタッフ間で共有する

【取組むこと】

- ☞ 子どもからの「なんで」「どうして」といったつぶやきを会議等の議題として取り上げる
- ☞ 会議は子ども目線に立って考えたり、事例研究会を行ったりする
- ☞ 全員が発言する機会を意図的に設定した打合せを実施する
- ☞ 会議や研修の内容は、施設内で共有する

②スタッフ間のコミュニケーションの機会を多く設定し子どもが

明るいと感じるような雰囲気を保つ

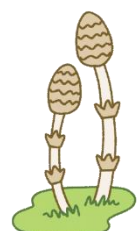
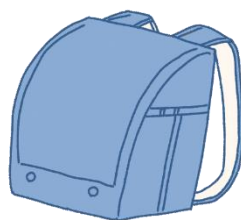
【取組むこと】

- ☞ 誰もがどんな意見でも言えるような雰囲気をつくる
- ☞ お互いにニックネームで呼んだり、さんづけしたりして（先生の呼称は不可）、フレンドリーな感じを出す

③新しい事・考えを取り入れ、チャレンジをおそれない

【取組むこと】

- ☞ 「こどもまんなか」の目線で物事を捉えなおす
- ☞ これまで当然としてきた方法ややり方を見直す
- ☞ 長期休み前等、定期的に従来のルールややり方を考え直す会議を設ける



6 施設の広報・掲示物

①子どもの写真・作品を、子どもや保護者の目が向きやすい所に積極的に掲示する

【取組むこと】

- ☞ 子どもの作品コーナーを作る

②保護者の関心や理解が深まるような広報を行う

【取組むこと】

- ☞ 玄関等にイベント等の写真やポスターを掲示する
- ☞ お迎えの際に保護者が（短時間でも）施設内を見られるようにする

③メールやSNS等を利用して施設での様子を広く発信する

【取組むこと】

- ☞ 定期的にジャーナルを発信する
- ☞ ルールや決まりの変更、スタッフの異動など子どもの生活に関する変更はすみやかに保護者に共有する
- ☞ イベント告知、イベント報告を発信する



7 その他

①子どもの安心・安全を保証する

【取組むこと】

- 👉子どもの手の届く場所に危ないものを置かない
- 👉子どもの目線になり、環境を見直す定期的な検査を毎月一度以上実施する
- 👉不登校傾向の子どもも希望に応じ午前中に施設で過ごせるようにする

②施設は清潔に整理や清掃を心掛ける

③プログラムは希望者ができる限り参加できるように配慮する

【取組むこと】

- 👉日常的に気軽に参加できるプログラムを実施する

④「こうあるべき」という意識やルールを見直すため、青少年課や他施設、外部の意見を聞く機会を定期的に設ける



放課後かまくらっ子スタッフのためのポイント集

◆子どもとの会話のポイント

No.	ポイント	説明
1	I(アイ)メッセージで伝える	「私はこう思う」など主語を自分にした伝え方を意識
2	思いや考えを引き出す言葉を使う	命令や否定ではなく「これおもしろいね」「どう思う？」など
3	視線を合わせる	しゃがむなどして、安心感を与える
4	共通話題を持つ	継続的な親近感につながる
5	身体的コミュニケーション	ハイタッチやボディランゲージを積極的に活用

◆子どもとの関わり方のポイント

No.	ポイント	説明
1	ナナメの関係を意識する	親や先生でもなく、友達でもない中間的な立場
2	見守りの位置に配慮	死角をつくらず、子どもの安全と安心感を確保
3	いつも機嫌よくする	存在そのもので「いていいんだよ」と伝える

◆保護者との関係のポイント

No.	ポイント	説明
1	子どもの具体的な様子を伝える	お迎え時などにその日の出来事やがんばりを共有
2	問題行動は家庭の事情を踏まえて伝える	配慮ある説明と対応を心がける
3	保護者の悩みに共感する姿勢	聴く・受け止める姿勢を大切にする
4	難しい場合は連携を	学校・関係機関との連携を活用
5	怪我等の対応は適切さを重視	スピードよりも正確性と共有を大切にする

◆学校との連携のポイント

No.	ポイント	説明
1	教職員との日常的な挨拶・連絡	教職員・技能員など全スタッフに丁寧な対応
2	情報共有は管理職を通じて	けがやトラブルの際の報告先を明確に
3	学校施設の利用ルールを遵守	不明点は子どもではなく教職員に確認
4	学校生活の決まりに準じる	必要に応じて違いを子どもにも説明する

◆スタッフ間の連携のポイント

No.	ポイント	説明
1	気持ち・情報を共有	毎日の声かけや会議で意思疎通を図る
2	従来のやり方を見直す	こどもまんなかの視点で柔軟に改善する
3	リスペクトを忘れない	趣味や考えを尊重し、認め合う関係性をつくる
4	発言しやすい雰囲気をつくる	上下関係をつくらず自由な意見交換を促進

◆広報・掲示物のポイント

No.	ポイント	説明
1	偏らない掲示	特定の子ばかりを掲示しないよう配慮する
2	保護者の関心に配慮	イベント掲示や施設内見学の機会を増やす
3	情報発信の工夫	メール・ジャーナルなどで日常を伝える

◆安全・整理整頓・運営のポイント

No.	ポイント	説明
1	環境点検を定期実施	毎月1回以上、子どもの目線で確認する
2	不登校傾向児童への対応	学校との連携を前提に午前中受け入れなど調整
3	運営ルールの見直し	「誰のため・何のためのルールか？」を意識

ポイント集 補足編

～ 子どもから相談されたら ～

- ①相談があった場合は、他の職員に声をかけ、傾聴に徹する
- ②深刻な相談の場合は、統括責任者、統括支援員に報告する
また、青少年課に一報を入れる
- ③専門機関につなげる必要があるとみなした場合、迅速に専門機関につなぐ
- ④対応した後、共有できることは会議等を設け、皆で考える機会を持つ

専門の相談機関の情報を知り、活用できるようにしておこう！

～ トラブルが発生したら ～

単独での判断は避け、統括への相談を含め、支援員で臨機応変に対応する。

- ①各施設での対応
初期のクレーム対応、子ども同士のケンカが発生した場合等
- ②指定管理者（エリアマネージャー）に相談
事業の変更・中止が発生した場合等
- ③指定管理者と青少年課に報告
保護者へ連絡するような変更等や警察に連絡するようなトラブルが発生した場合等

～ 新しい事・考えを取り入れ、チャレンジをおそれない とは ～

こんな疑問やモヤモヤ 感じたこと ありませんか

？このルールって何のためにあるのだろう。。

？昔に青少年課から言われたとおりのやり方だけど、

「こどもまんなか」の考えと異なるなあ。。

→子どもにとって最善のやり方とは...見直しにあたっての意見交換や施設間の情報共有の機会を設定していきます。

(6その他 ④を参照)

NG行動・NG言動集

◆子どもとの会話に関するNG

- ×感情的に叱る
- ×「お前」と呼ぶ
- ×自尊感情を低下させる言動（誰かと比べる、失敗しないことを強く求める）
- ×館内放送（マイク）の多用

◆子どもとの関わり方に関するNG

- ×大人の都合だけで物事を決める
- ×先入観、固定観念、慣例にとらわれる
- ×仁王立ちなど、子どもに威圧的と捉えられかねない姿勢をとる

◆保護者との関係に関するNG

- ×トラブル発生時に単独で判断する

◆スタッフ間の連携に関するNG

- ×子どもがいる時間に不必要な会話をする
- ×施設内で子どもや保護者、他の支援員の悪口を言う
- ×決まった人しか発言しない打合せ・会議
- ×「〇〇先生」と呼び合う（呼称として先生は禁止）
- ×子どもの前で支援員同士が個人情報に関する話題で会話する

◆施設の広報・掲示物に関するNG

- ×子どもの作品に評価をつける

放課後かまくらっ子スタッフ チェックリスト

1. 子どもとの会話

- 子どもが話しかけやすい雰囲気意識していますか(笑顔・やさしい声かけ)
- 名前と呼ぶなど、親しみやすい関係を築いていますか(ニックネームなども可)
- 子ども話を傾聴していますか(遮らない・共感する)
- 丁寧な言葉づかいをしている(「お前」「早くしろ」などはNG)
- 感情的に叱ることはしていませんか

2. 子どもとの関わり方

- 子どもの自主性を大切にしていますか(指示は最小限)
- 子どもの「やりたい気持ち」に寄り添っていますか
- 多様性・発達段階に配慮して対応していますか
- 固定観念や大人本位で決めていませんか

3. 保護者との関係

- 日常的に挨拶や声かけを行っていますか
- 子どもの活動の様子を具体的に伝えていますか
- トラブル時は状況確認をし、事実に基づき報告していますか
- 一人で判断せず、複数人で協議して対応していますか

4. 学校との連携

- 教職員や校内スタッフに丁寧な挨拶をしていますか
- 学校施設や備品のルールを守っていますか
- トラブル・気になる子どもの様子は学校と適切に共有していますか
- 学校生活のルールにできるだけ準じていますか

5. スタッフ間の連携

- 子どもの変化や情報を共有していますか
- フラットな関係でコミュニケーションしていますか
- 自分の意見を出しやすい雰囲気づくりを意識していますか
- 悪口・雑談・個人情報の会話を子どもの前でしていませんか

6. 広報・掲示物

- 子どもの作品や写真をわかりやすい場所に掲示していますか
- イベント情報や様子を発信していますか
- 作品に評価をつけていませんか

7. 安全・衛生・その他

- 危険物や環境整備に配慮していますか
- 清潔な施設運営に努めている
- 不登校傾向の子どもなど多様なニーズに対応していますか
- ルールの目的・意義を常に見直している

参考事例集

🗨️ 子どもとの会話

参考事例	ねらい・効果
名札や紹介カードに「呼んでほしい名前」を書く	名前で呼ぶことで安心感や信頼関係を築くきっかけになる
スタッフのニックネームを子どもに考えてもらう	子どもが主体的に関わるきっかけをつくる
子どもの中で流行している話題(ニュース・遊び等)を常にチェック	共通の話題で会話が広がり、距離が縮まる

🌱 子どもとの関わり方

参考事例	ねらい・効果
子ども主体のイベントを開催	子どもの自主性と協働意識を育む
子どもマイスター制度(将棋やスポーツ等)を導入	得意を認め合う文化を育てる
意見箱を設置し、ルール変更は子ども会議で決定	自分たちの居場所を自分たちでつくる実感につながる
一人になれるテントや、ゴロゴロできるスペースを設置	気持ちを落ち着ける時間と空間を保障する
学習時間は読書や塗り絵など柔軟に認める	その子に合った集中の形を尊重する
子どもと支援員と一緒に遊ぶ時間を作る	共に遊ぶことで信頼関係を深め、関係性をより豊かにする
折り紙使用枚数の制限など子どもの活動を縮小させるようなルールを廃止する	子どもの自由な発想や表現を大切にし、のびのびと活動できる環境を整える

👤 保護者との関係

参考事例	ねらい・効果
連絡ノートを事務連絡だけでなく充実した内容にする	日常的に子どもの様子を共有し、信頼関係を深める
保護者向け相談箱を設置	相談しやすい環境を整える
保護者参加型イベントやボランティアを募集	家庭と施設の一体感を高める
電話だけでなくメールや手紙など多様なつながりを工夫	各家庭の状況に合わせた柔軟な対応を可能にする

学校との連携

参考事例	ねらい・効果
備品返却時にチェックリストを設ける	学校との信頼関係を保ち、誤解やトラブルを防ぐ

スタッフ間の連携

参考事例	ねらい・効果
研修や会議で学んだ内容を発表する場をつくる	学びを共有し、チームの力を高める
子どもが描いた似顔絵や趣味紹介などで支援員紹介コーナーを工夫	親しみやすい雰囲気をつくり、子どもの安心感を高める

広報・掲示物

参考事例	ねらい・効果
子どもがおすすめする本を掲示	子ども同士の交流を促し、読書習慣を育む
保護者見学会や親子交流型イベントを実施	活動内容が見える化し、信頼を深める
年度当初に写真掲載同意を取得	広報活動を円滑かつ安心して行うための基礎となる
ガーランドなどの立体作品や半立体作品を展示する	空間を温かく演出し、来所者や子どもに親しみを感じさせる雰囲気をつくる
子ども共同作品を展示、作品展を開催	子どもの努力を可視化し、達成感を高める

その他

参考事例	ねらい・効果
同一プログラムを複数回実施し参加機会を保障	全員が平等に参加できる機会を確保する
おやつや昼食の時間の際は、静かに食べることを強要せず、好きなもの同士で食べてよい	食事の時間を安心して過ごせる、自然な交流の場とする
手作りおやつや屋外おやつタイムを導入	日常に楽しみと特別感を取り入れる

放課後かまくらっ子 令和7年度事業改新ワーキンググループメンバー（50音順）

石崎 順子	（放課後かまくらっ子おさか 統括支援員）
片岡 朋子	（放課後かまくらっ子ふかさわ 統括支援員）
齋藤 まどか	（放課後かまくらっ子にかいどう 統括支援員）
坂井 章子	（放課後かまくらっ子にしかまくら 統括責任者）
櫻井 芳人	（放課後かまくらっ子たまなわ 統括支援員）
砂川 準子	（放課後かまくらっ子いなむらがさき 統括支援員）
関口 葉月	（放課後かまくらっ子こしごえ 統括支援員）
舘野 七帆	（放課後かまくらっ子ふじづか 統括支援員）
長尾 敏子	（放課後かまくらっ子いまいずみ 統括責任者）

放課後かまくらっ子推進部会

小泉 裕子	部会長（鎌倉女子大学短期大学部学部長）
加藤 彰彦	委員（沖縄大学名誉教授）
上江洲 慎	委員（認定NPO法人鎌倉てらこや代表理事）

放課後かまくらっ子 令和7年度事業改新ワーキンググループ事務局

猿渡 智衛	（放課後かまくらっ子推進参与）
正木 照雄	（青少年課長）
白井 孝弥	（青少年課青少年担当）
高橋 真理実	（青少年課青少年担当）

令和6年3月29日 第1版発行
令和7年3月21日 第2版発行
令和8年6月 1日 第3版発行

本冊子活用に向けた思い

放課後かまくらっ子は開始から7年が経過し、多くの子どもや保護者から高い満足度が得られています。一方で、運営に関する否定的な声もあり、改善の必要性が指摘されています。鎌倉市は「こどもまんなか宣言」に賛同し、その理念に基づいた運営を目指しています。その一環として、アンケートや協議を経て『放課後かまくらっ子が大切にすること』を策定し、令和6年度から具体的な取り組みを開始しました。より良い放課後かまくらっ子を目指すための指針として活用してください。

鎌倉市こどもみらい部青少年課

◆具体的な活用方法◆

1. 新人スタッフへの教育・研修ツールとして使う

*新任スタッフにとっては、業務の基本方針と対応スタイルを理解する入門書になります。

2. 定期的な振り返り・チェックに使う

*スタッフ間のミーティング等で内容を取り上げて「最近NG例に近い対応はなかったか？」
「新しく取り入れられる参考事例はあるか？」など振り返る。

3. 施設ごとの取り組み強化に活かす

*各施設で「子ども主体のイベントの開催」「支援員の紹介掲示」「意見箱の設置」など、参考事例を導入するためのアイデアブックとして活用。

所属

氏名
